

駅は繋ぐ

Vol.3
February, 2010

積み重なった想いが具現化される。

計画は次の段階へと“繋がってゆく”。

「名鉄東岡崎駅」は魅力あふれる中核市・岡崎の玄関口としてふさわしい、誰もが使いやすい、地域のにぎわいを生む駅に生まれ変わります。

西に「にぎわい広場」、中央に「橋上駅と駅ビル」「バスターミナル」、東に「一般車とタクシー乗降場」の整備が予定され、中でも「にぎわい広場」は「にぎわいと交流を創造する拠点」として、地域の活性化につながることを期待されています。

今回の再整備で新設されるこの、「にぎわい広場」、今はまだ割り当てられたスペースにすぎません。このまっさらな広場がいったいどんな物語を紡ぎ出すのか、次の50年に向けて何を繋いでいくのか。無限の可能性を秘めたこの広場に、たくさんの夢や想いを詰め込み、そして実現すべく、3度にわたり市民検討会を実施してきました。そして今回がいよいよ最終回です。

今回は前回までに積み重ねられた想いにいよいよ形が与えられます。

一体どんな提案がなされたのでしょうか。そして、今まで検討を重ねてきた市民の皆さんの反応はどうだったのでしょうか。今までの検討が反映されているのか、皆さんに評価していただきました。

3回のワークショップを終えて ～皆が誇れる「岡崎の玄関口」を目指して～

1. 50年かけて愛される広場を目指す。
岡崎の象徴として持続的に愛されるために、時間の経過とともに味が出るような工夫を。
2. 駅ビルデザインとの調和を大切に。
広場、駅ビル、周辺整備の一体的なイメージ形成を（緑、岡崎案内機能は全体で計画）。
3. 歩行者に優しいまちづくりの発信地に。
高齢者や障がい者にも優しい配慮をし、車中心から歩行者中心のまちづくりを広める。

にぎわい広場の基本構想の策定にあたり、第1回目のまち歩き、第2回目のデザイン・ゲーム、そして今回、これまでのWSを踏まえた構想案の確認・評価というプロセスを重ねて参りました。延べ100人余りの方々に活発な意見をいただきましたので、素晴らしい基本構想を作ることができると思います。

この皆さんの夢や想いの詰まった計画は、“舞台”としての広場整備だけで実現できるものではありません。この舞台で、物語をつくっていくのは、他ならぬ市民の皆さんであり、地域のにぎわいを取り戻すためにも、市民、行政、名鉄をはじめとした事業者が、一丸となって岡崎らしい“つながり”を創り出していきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

計画のこれから...

本市の長年の懸案であり、多くの皆様が待ち望んでみえる東岡崎駅周辺地区整備。その第一歩として、名古屋鉄道㈱が行うバリアフリー化工事にあわせて、現在の東岡崎駅に橋上駅化による東改札口を設置する工事（第1期分）に関する基本協定を名古屋鉄道㈱と本年1月26日に締結しました。

既に名古屋鉄道㈱は昨年12月にバリアフリー化工事に一部着手しており、4月からはこの基本協定に基づいた一体的な工事を進め、今年の12月末までには、仮設改札口による暫定的な供用を開始する予定です。暫定整備完了後も引き続き工事を進め、3年後の平成24年度の東改札口の完成を目指していきます。

なお、駅舎工事と一体的に整備する予定のにぎわい広場を含む駅前広場については、年内の都市計画決定の告示をめざして手続きを進めており、今回の市民検討会で提案いただいた「にぎわい広場に必要機能」については、将来の整備の際に参考とさせていただきます。

ご協力ありがとうございました。



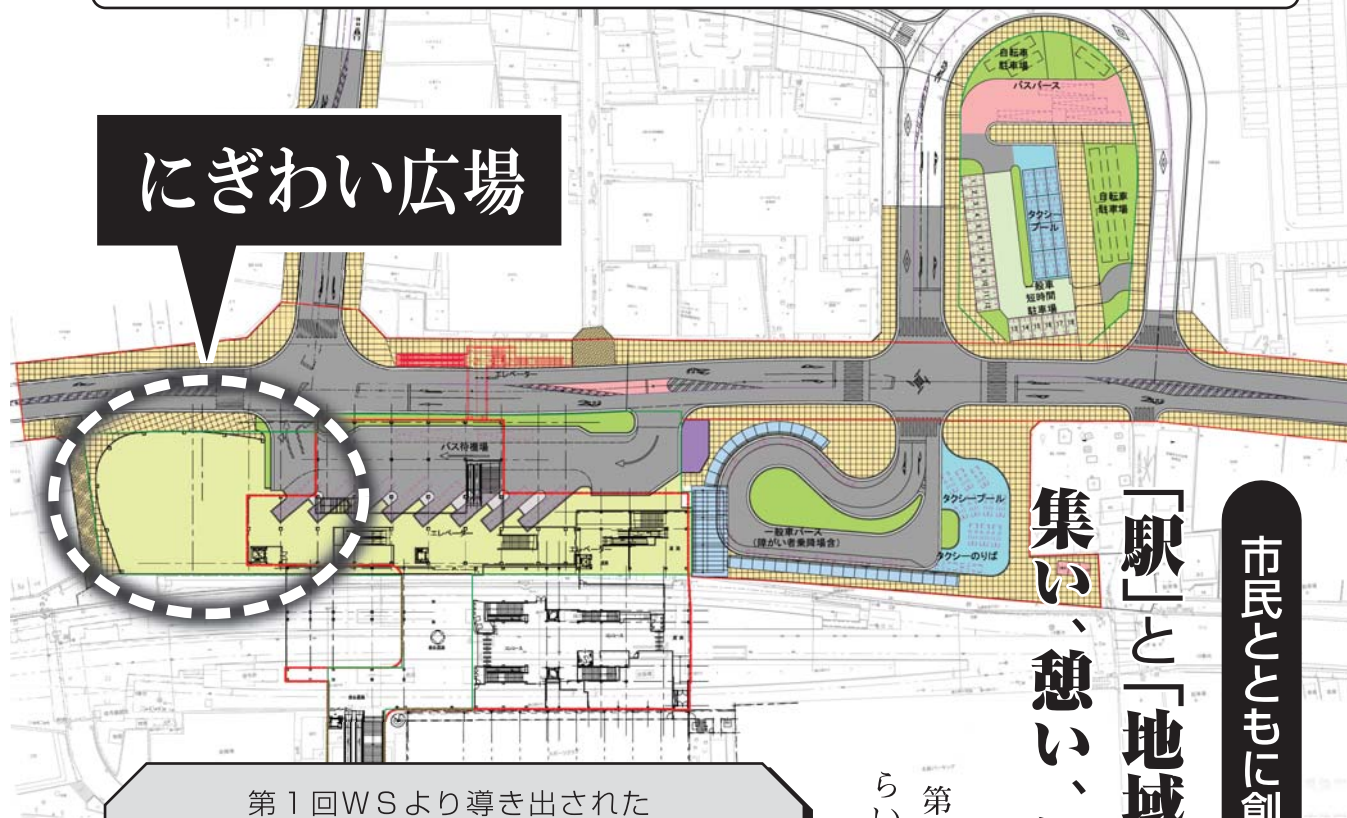
▲第1期工事竣工時点の東改札口のイメージパース

主催 岡崎市都市整備部東岡崎・藤川地区整備課 ☎(0564)23-6452
運営・企画 有限会社 千里建築設計事務所／NPO法人 岡崎まち育てセンター・りた
協力 NPO法人 岡崎都心再生協議会
編集 NPO法人 岡崎まち育てセンター・りた

平成21年11月1日開催 第1回WS

現地を確認し、広場とまちをつなぐ広場をイメージしよう

にぎわい広場



市民とともに創る

「駅」と「地域」「文化」「自然」をつなぐ、
集い、憩い、にぎわい、交流の拠点「にぎわい広場」

第1回は、にぎわい広場の計画地を実際に現地で確認し「こんな広場になった
らいいな」という、広場計画への方針をまとめることができました（左記）。

第1回WSより導き出された

●広場計画の6つの方針●

- ① 岡崎の顔となり、岡崎の歴史と文化を語る広場
- ② 自然を感じる広場
- ③ 意味のある階段デザイン
- ④ 広場外の動きとも連動
- ⑤ 日常と非日常で表情の変わる広場
- ⑥ 「わ(和・輪)」を感じる広場

初めて来た人に分かるよう
な工夫が必要。

イベントの目的・形態

- イベントを市民型でやるか？
あるいは、岡崎市の案内のため
にやるか？
- 2階踊り場をステージとして
利用してみるのもよい。
- まちに人を誘導するためのイ
ベントを実施するための場所
として考える。
- ※ 二百名以上集まるイベント
は広域的に無理。

広場の顔としての階段

- 人が座りやすくなるためのし
かけを考えよう（階段に緑が
植えられるとか）
- 北西からバス乗り場までの動
線はとも良い。
- 階段の中央をステージとして
活用しよう。

オーブンカフェの場所

- 安全確保の面で境界線が引か
れているが、移動式カフェな
どは広場内このスペースで
も販売できるような使い方を
提案したい。

駅名の変更

- 駅を改修する機会に駅名も「新
岡崎駅」などに变えて、新し
くなることを大々的にPRし
たらどうか。

良い

- これまでの市民の意見が反映
されている。

階段の手すり

- 高齢社会を考慮すれば、手すり
はあった方がよい。昇降で交
差しないよう、2箇所必要か。
- この大階段をゆとりある遊び
空間と捉えれば、手すりはな
い方が楽しい。
- 機能性を求める人はエスカレ
ーターを利用し、ゆとりを求
める人は階段を利用すればよ
いのでは？

広場のシンボル

- シンボルとしての緑だけでは
なく、広場全体に緑を点在さ
せてほしい。（岡崎全土に広
がる緑を意識して）
- まちと「つなぐ」という意味
で、地理的な機能を持たせる
ために、東西南北がわかるよ
うにしたい。
- 話題性のあるインパクトのあ
るシンボルが欲しい。
- 抽象的なものよりも、具体的
なものの方がわかりやすいのでは？
- 岡崎の観光名所に向かわせる

その他 個別の意見

- ような床画やモニュメントに
してほしい。
- 床画やモニュメントには、岡
崎につながるストーリーを盛
り込んでいく。
- 屋根を活用し、「ここが駅！」
という目印にもしていく。（東
岡崎は初めての人には駅の間
所が分かりにくい）
- 岡崎公園内の城をモチーフ
にした公衆電話を移設して
はどうか？

たまりのためのベンチ・ テーブル

- 人が溜まるためには、ベンチ・
テーブルが必要。
- 仮設のものは、移動販売する
人が準備をする。
- 常設のものは、デザインや素材
に岡崎らしさを取り入れたい。

駅ビルや周辺整備との 調整が大事

- 広場だけではなく、駅ビルの
計画との調和が必要。
- 大屋根を支える柱は無い方が
いい。ビルから吊るすなど工
夫が出来ないか。
- 駅周辺に歩行者エリアが弱い。
歩行者中心のまちづくりとし
て東岡崎駅周辺を一体的に整
備することが大切。
- 広場でくつろぐ人の動線と
先を急ぐ人の動線の区分が、

● 市民検討会 全体の流れ ●

第1回 11月1日(日)

現地を確認し、駅とまちを
つなぐ広場をイメージしよう

第2回 11月29日(日)

広場のイメージを形にしよう

第3回 1月24日(日)

構想案を評価しよう

広場のイメージを形にしよう

第1回WSの意見を踏まえ策定された14の物語

※皆さんが広場で大切にしたいシーンを、14の物語にまとめました。

木陰の下で読書の出来るお洒落なベンチ	食事やトランプのできるオープンカフェ	待ち合わせが出来る岡崎的モニュメント
会話のはずむ市場	パフォーマンスや音楽イベントが出来る広場	子どもが水遊びができる水辺
樹木の間をすり抜ける石畳の小径	日向ぼっこ出来る芝生	物語が生まれる眺望の良い階段
1階を見下ろせるギャラリーのような踊り場	今の岡崎を伝える動画・テレビ	まちに誘う壁画・床画
まちに飛び出すレンタサイクルポート	乙川や岡崎公園につながる緑	

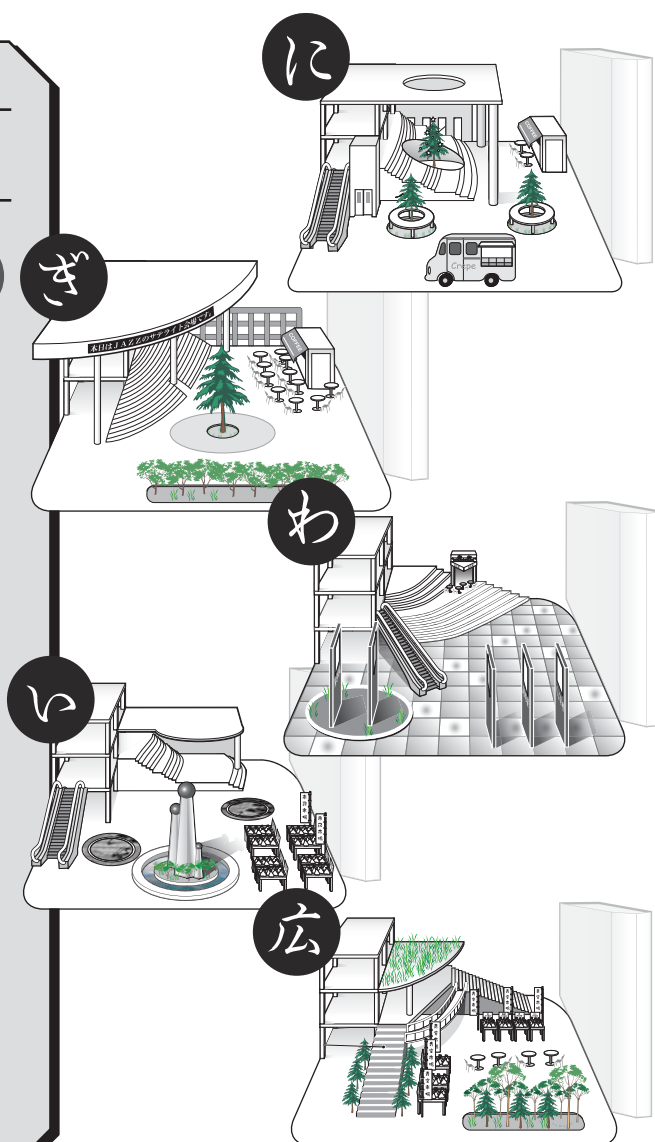
14の物語

第2回ワークショップでは、第1回のワークショップでの要望を集約した14の利用物語を軸に、自分が広場で大切にしたいシーンをイメージをし、模型を用いたデザインゲームで空間イメージとして具体化しました。

第2回WSより導き出された

●広場に求められる6つの機能●

- ① ゆったり滞在でき、広場の顔となる大階段
- ② 一息つけるオープンカフェ／会話のはずむ市場
- ③ 乙川や岡崎公園を想起させる自然に安らぎを感じる
- ④ 普段はオープンテラス、時に現れるステージ空間
- ⑤ 岡崎らしさを映し出す床画・モニュメント
- ⑥ 広場の様子が見え隠れする壁面・光を透過させる屋根



▲各グループより提案された広場デザイン

構想案を評価しよう

実施日時：平成22年1月24日
場 所：明德保育園
参 加 者：26名
(男性23名 女性3名／20歳代～70歳代)

WS2で挙げられた6つの機能から見た評価

① ゆったり滞在でき、広場の顔となる大階段

○機能性とゆとりで階段が分けられているのが良い。	○段差が違ったり階段が楽しそう。さらに面白く遊びを増やす工夫をしてほしい。	○待ち合わせに使いそう。	△可能性がもっと広がるはず。植栽を施すなど。	△手すりが必要では。	△視線がまちを向いていない。	△西よりも北側の階段が広い方が良いのでは。
--------------------------	---------------------------------------	--------------	------------------------	------------	----------------	-----------------------

② 一息つけるオープンカフェ／会話のはずむ市場

○広場全体を使った使い方もできるため、良い。	△特定日を決めて、広場全体を使用してカフェの日、市場の日にするとうまい。	△車両エリアを分けない方がよいのでは。	△イベント向きではなさそう。	△背中に壁を感じる空間でないと落ち着かない。	×日本人にはオープンカフェ文化がなく、とくに冬は寒いので屋内が良い。	×スペース的に難がある。イベント時には駅利用者に迷惑になる。
------------------------	--------------------------------------	---------------------	----------------	------------------------	------------------------------------	--------------------------------

③ 乙川や岡崎公園を想起させる自然に安らぎを感じる

○外につながる広場になっている。	○緑化スリットが良い。	△岡崎城をイメージした緑、歩道の緑、車道の向こう側の緑が層をなして見えると良い。	△四季を感じさせる緑が点在するとよい。	△夜でも乙川を表す舗装がわかるようにLEDライトで床を照らす。	△乙川や岡崎公園がイメージできるような工夫が必要。	×現状では安らぎを感じるのには難しい。
------------------	-------------	--	---------------------	---------------------------------	---------------------------	---------------------

④ 普段はオープンテラス、時に現れるステージ空間

○楽しそう！	○移動販売などはやりやすそう。市場もできる。	△もっと多くの人が広場に座れる場所（工夫）がいる。	△ステージの方向と階段の方向が一致していない。	△ハードは良いと思う。あとはどう利用するか。	△仮設ステージの収納場所や倉庫も検討すべき。	△既存の設備を利用してステージ設営すべき。
--------	------------------------	---------------------------	-------------------------	------------------------	------------------------	-----------------------

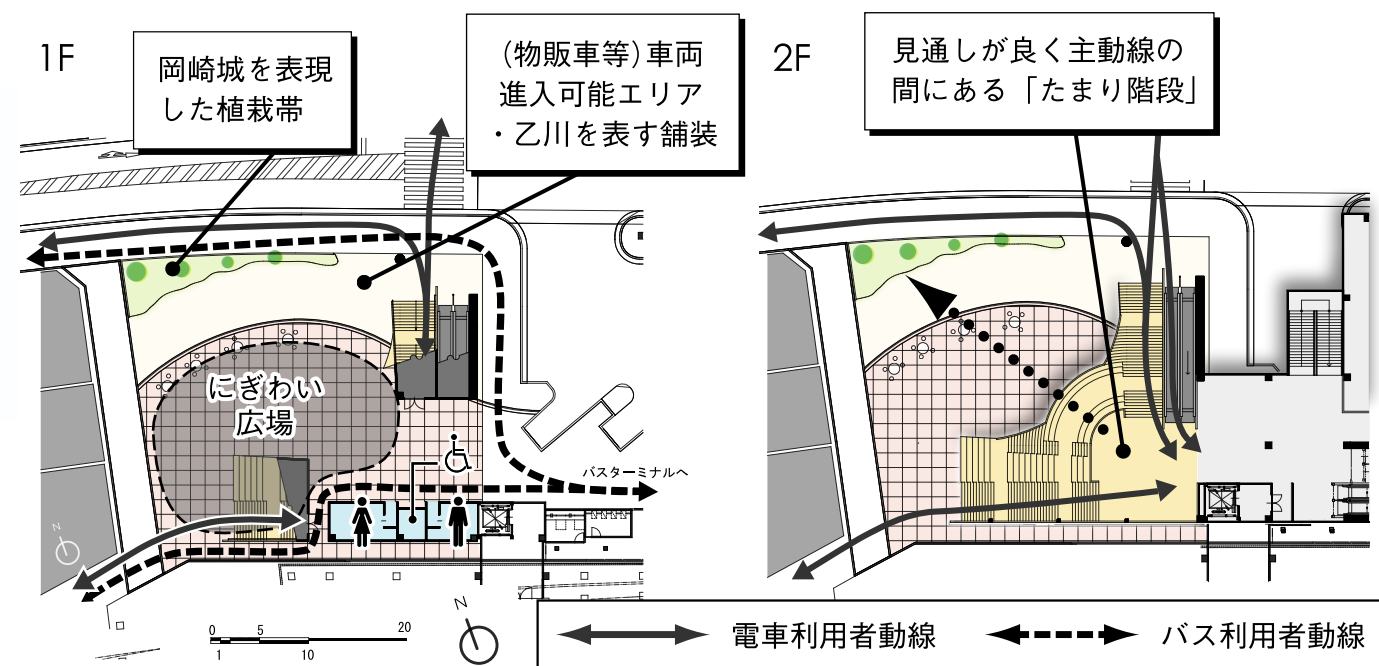
⑤ 岡崎らしさを映し出す床画・モニュメント

○良い。チョンゲチョンの壁画の様なものも参考にしたい。	○お祭りの出発点や終着点として活用すると良い（金沢駅、百万石祭りみたいに）。	△乙川を表現している床画は、素材にもこだわっていただき、川の流れる感じたい。	△車止め等必要な設備に命を吹き込んでほしい。	△天井に広告を映し出すなど、媒体変化に対応できるようにしては。	△床画は良いが、エリアが小さいのでは。	×印象に残るものがない。
-----------------------------	--	--	------------------------	---------------------------------	---------------------	--------------

⑥ 広場の様子が見え隠れする壁面・光を透過させる屋根

○広場と電車を分ける壁面緑化の演出がよい。	○電車から広場の様子が見え「今度来たとき、行ってみようかな」と思える仕掛けだ。	○開放感があるため圧迫感がなくてよい。また光を透過するので採光ができて良い。	○季節によりカラーを変える、また、広告媒体として利用するなど工夫しては。	△屋根のL型とシェルの一体感がない。	△屋根等のメンテナンス（汚れ）は大丈夫？	△鉄道・バス・道路からの騒音への配慮は必要。音を閉じながら、光・視界を開く。
-----------------------	---	--	--------------------------------------	--------------------	----------------------	--

Plan



Scene



玄関口にふさわしいシンボリックな屋根・大階段



非日常の利用(イベント広場として)



緑の間から見える広場・おしゃべり空間(階段)



カフェ・市場が開かれている

千里建築設計より提案された「にぎわい広場模型案」



1. 多目的な広場空間
2. 安全性の確保
3. 「繋ぐ」広場

多目的

安全

繋ぐ

第1回、2回のワークショップで出された皆さんの思い、アイデア、空間イメージは、基本構想案の策定業務を請け負う千里建築設計事務所により、具体的な提案としてまとめられました。

積み重ねた市民の想いを具現化した にぎわい広場模型案

多目的な広場空間

「表情」が変わるにぎわい広場

「集い」「憩い」「にぎわい」「交流」など、様々な利用形態を想定した開放感あるオープンスペース

安全性の確保

利用者が安心して使える広場

1. 視覚認識率を向上させる明るい空間
2. 日常とにぎわいの動線を分けることで、主動線を確保
3. 広場北側の植栽帯によって歩行者空間を保護
4. オープンなスカイライン構成による、圧迫感の緩和
5. 花火などの混雑時における歩道空間の確保

「繋ぐ」広場

「繋ぐ」起点となる岡崎の玄関口

岡崎のひとやまち、歴史、文化、自然と繋がる空間